

## 会議結果報告書

1. 会議名 令和4年度 第6回 印西市環境推進市民会議
2. 日時 令和4年10月21日(金) 9:30~11:00
3. 場所 市役所会議棟 204 会議室
4. 出席委員：岩井会長、川井委員、小山委員、白川委員、関根委員、橋本委員、平林委員、  
福井委員、村形委員、山崎委員、吉村委員、渡辺委員  
事務局：環境保全課 飯島課長、海老原保全係長、齋藤主査、清田主査補
5. 傍聴者 5名
6. 配布資料  
・会議次第
7. 内容
  - (1) 開 会
  - (2) 会長挨拶
  - (3) 議 事
    - ①環境基本計画の推進について  
事務局より、前回までの会議の中で提案のあった環境カレンダーについて、実施方法等について具体案を説明。  
委員：前は、広報いんざいに差し込む方法で提案があったが、その形ではなく、通常のカレンダーを印刷するという形で、もし予算がついた場合は、来年の10月から11月頃までには内容を固めるというスケジュールを想定して良いということか。  
事務局：現状は予算要求の段階のため、はっきりとしたことはお答えできないが、事務局としてはそのような形で行いたいと考えている。  
委員：カレンダーづくりに3グループ全体が関わっていくのと併せて、自分たちがやりたいことも検討していくと時間がないため、今回は発表時間を短くし、グループごとの検討時間を長く取っていただきたい。  
委員：事務局からカレンダーの作成イメージについて説明があったが、このような形で作成してくださいということか。  
事務局：予算要求するにあたっての仕様として想定した内容をご説明した。仮に予算がついた場合には、予算の範囲内で作成することになる。予算が確定したわけではないため、委託しないで作成する場合もあることを念頭に置いていただきたい。  
委員：配布された環境カレンダーディスカッションメモについて説明していただきたい。  
委員：前回までの議論の内容をメモとして作成しており、会議で出た意見を反映し、毎回更新していきたいと考えている。前回出た意見を踏まえて更新した箇所は赤

字としている。

会 長：他になければ、グループごとの取組の検討時間とする。

—各グループに分かれて検討—

会 長：各グループから検討した内容の発表をお願いします。

委 員：グリーンインフラグループからは3つ提案したい。一つはホテルを守るということ  
を大きな目標としたいと考えており、そのためには、二点目、谷津等をしっかり把握するということ、三点目に、北総クルベジのような、市民団体が使える施設を確保すること。これら一つ一つをどのように進めていくかということについては、大きなものとして、印西市のグリーンインフラを活用するまちづくり条例の制定を提案したい。将来、劣化したニュータウンとならないように、活気ある安全で美しいまち印西を目指して、この3つを柱と考え、ホテルとクルベジについては具体案を、条例の制定についても案を出したいと考えている。

会 長：クルベジは、クールベジタブルの略で、CO<sub>2</sub>を出さない野菜ということである。

委 員：30by30 目標の資料を参考までに配布したが、保全地区の指定について、印西市で30%以上は可能かと思われるため、OECMに手を挙げたらどうかということも提案したい。

会 長：ただいまの発表に対して質問がなければ、次にサステナブルグループの発表をお願いします。

委 員：環境カレンダーについて、先ほどの事務局の説明の補足となるが、2か月に1枚のカレンダーだと、記入スペースが足りなくなるのではないかと懸念している。カレンダー以外のスペースは、写真部分と情報部分に分けて掲載し、情報部分では、環境クイズなどを入れても良いのではという案が出た。カレンダー全体では、12ページ分のスペースがあるため、各グループで4枚ずつ内容を掲載できると考えており、サステナブルグループでは、海洋プラスチック、食品ロス、ポイ捨て、3Rのテーマで内容を検討したいと考えている。

会 長：ただいまの発表に対して質問がなければ、次にカーボンニュートラルの発表をお願いします。

委 員：5項目の内容を検討した。1つは、ソーラーシェアリングの促進ということで、環境カレンダーに掲載するとともに、農地の活用についても検討を進めていただきたい。ソーラーシェアリングについては、会長より補足説明をお願いします。

会 長：ソーラーシェアリングは、農地を活用した太陽光発電設備の設置で、農地法で8割以上農業生産がされていないと農地として認められなくなってしまうことから、躊躇する人が多かったが、いまや全国、世界でも浸透しつつある。太陽光発電設備を必要な箇所に導入することで、生産物の収量が上がるという情報もあり、加えて太陽光発電による収入もあることから、農業従事者の跡継ぎ問題の解決にもつながると聞いている。印西市では例がないため普及して欲しい。

委員：今の説明について、カレンダーに掲載するという話があったが、対象は農業従事者に限定されてしまうのではないか。

委員：千葉県を中心に、そういった取組を全国で推進しているということを市民に広く伝えるためには効果的と考える。2つ目は、印西市は車の所持者が多く、走行距離や給油量、また、電気使用量などもカレンダーに記録できる形にできれば良いと考えている。3つ目は、データセンターによる環境保護についてということで、データセンターは、世界的な基準や環境省による基準を満たして建設されるはずである。市としては、ヒアリングなどを通じて状況を把握することで、二酸化炭素排出量の増加の懸念などを排除できるようにする必要があると考える。4つ目は、区域施策編の中で2030年までの削減目標が示されているが、実行計画を作成し、誰がどのような役割で、この目標に対してどのように進めるかを具体化する必要があると考える。5つ目は、公用車の電気自動車かということで、ガソリン車を電気自動車に代え、実績を市民に公表すること、また、スタンド建設を進めるなどの取組も必要と考える。

会長：データセンターの話が出たが、市からデータセンターについて説明機会を設けることについて要望したところ、できないという回答があったと聞いている。

事務局：そういったことは各社難しいのではないかという印象を受けた。エネルギー使用量などについては、環境省が公表している内容を確認してほしいという回答であった。

会長：そこで私から一つ提案だが、東京に日本データセンター協会というものがあり、そこに依頼すれば一般的なことを回答いただけるのではと考えている。

事務局：どのような内容の説明を希望するのか。

委員：印西市内にデータセンターの建設が相次ぐ中で、一般的な企業の4倍ものエネルギーを使うことで市民への影響、高圧障害にならないかなどを知りたい。

委員：印西市が2050年カーボンニュートラルを宣言できない理由として、多量に電力を使用するデータセンターが建設されていることを事務局より説明されたため、データセンターに対して説明機会を希望するものとする。

事務局：1点目の市民への影響について、データセンター建設の際の住民説明会において、市民から同様の質問があった際は、開発基準に則り、許可を受けて建設していると回答があった。2点目のゼロカーボンシティ宣言については、以前は実現性を考え宣言には至らないとしていたが、現在は、ゼロカーボンの達成に向けて挑戦するという意思表示しようという方向に考え方を改め、検討を進めているところである。

会長：市民会議としては1年半前からゼロカーボンシティ宣言を市に対して提案してきたが、実現されれば嬉しく思う。全国でゼロカーボンシティを宣言する自治体は人口比で73%となっており、既に宣言した自治体からは、先ずやるという意

思表示が大事であり、どのように達成するかはこれから考えていくということ  
を聞くことが多い。

事務局：宣言については、先ず市内の合意形成を目的に、10月18日に幹部職員を対象  
として、気候変動適応と脱炭素のために市ができることというテーマで市内環  
境セミナーを実施したところである。今後も職員の意識啓発等、宣言に向けて準  
備を進めたいと考えている。

会 長：他になければ、本日の議題は終了とさせていただきます。

①その他

委員より、フードバンク等について情報提供いただいた。

(4) そ の 他

次回の会議開催予定、委員報酬について事務局より説明。

(5) 閉 会

以上

令和4年度第6回印西市環境推進市民会議の会議録は事実と相違ないことを承認します。

令和4年12月16日

印西市環境推進市民会議 委員 平林 光子

印西市環境推進市民会議 委員 福井 章夫